

2026年 青谷地区公民館長だより 1月号



# よらり、よらり、公民館

## 地域づくり

先日、県の社会教育課主催の「地域コーディネーター研修」に参加しました。  
国立教育政策研究所 志々田まなみ氏のお話の中に、とても興味深い言葉がありました。  
それは、

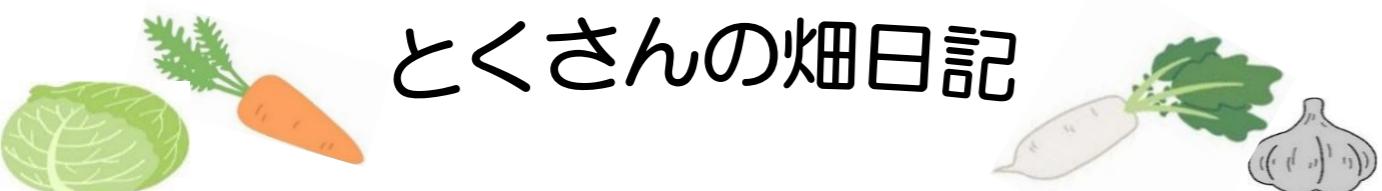
### 10年後を考える

です。簡単にお話の流れを説明します。

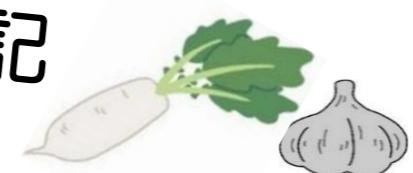
「今後消滅する町は、どんな町？」 ⇒ まあ、人口が極端に減る町でしょうね。  
「では、どうなったら人口が減る？」 ⇒ 子どもが生まれない  
⇒ 20代、30代の女性が住もうと思わない。

「20代、30代の女性が住もうと思う町にするには？」 ⇒  
ここがポイントです。ここで「10年後を考える」が出てきます。志々田氏は、「中学生は10年後に20代になり、その10年後に30代になります。つまり、中学時代にその町に住みたいと思うかどうかが鍵だ」と語られました。

なるほど、住民にアンケートを配って世帯で1枚提出してもらうと、高齢の方が書いて出すことが多いでしょう。だから、若者の意見が町に反映されないのでないでしょうか？感覚の違いはどうしようもないところがあります。だから、10年後の若者＝中学生（特に女子）が、この町に住みたいと思うようなまちづくりが必要ではないでしょうか。



## とくさんの畠日記



### 「虫にもいろんな種類がある・・・」

10月号に、8月末、暑い中蒔いた大根はいいできだと書きましたが、葉の付け根に穴が空いたものが多数見つかり、1畝の大根は没になりました…。今年も9月が暑かったせいか、蒔くのが早過ぎたのか。調べてみると、「夜盗虫（ヨトウムシ）」だと判明しました。不思議なことに、今年ダイコンハムシはほとんど見掛けません。

ダイコンハムシが葉っぱを食べつくすのに対し、夜盗虫は葉も食べますが、大きく育つと葉だけでなく、写真のように、大根の肩の辺りも大好きでよく食べるということです。9月になってから蒔いたものは大丈夫だったので、最終的に大根の多くは順調に、美味しくできました。

「虫だって一種類ではない」当たり前ですが、悔しいなあ



夜盗虫にやられると、ひどいことになる

シリーズ 知っていましたか、青谷のこと？

## 青谷高校が全国的な賞を取った！ ソーシャルアクション同好会



青谷高校のソーシャルアクション同好会が、よく新聞に出てるので、どんな活動をしたのか、担当の先生と同好会の生徒たちにお話を伺いました。この会はSDG'sについて「海」を中心として地域を巻き込んだ取り組みをしていて、今年は千葉県で行われた「うみぼす甲子園」と、大阪で行われた「SDG'sみらい甲子園」に出場しました。

### (1)『うみぼす甲子園』



うみぼす甲子園に参加した2年生

一昨年度は東京で開催され、特別賞に相当する【ソーシャルアクション賞】を受賞しました。今年度は10月に千葉県船橋市で開催され、「海の気持ちメーター」という劇を演じました。子どもから大人まで幅広い年代に伝わる内容だったことや、継続して活動してきたことが評価され、3位に相当する【海と日本プロジェクト賞】を受賞しました。このとき演じた劇は、11月に青谷小学校でも演じ、好評だったそうです。

### (2)『SDG'sみらい甲子園』



SDG'sみらい甲子園に参加した3年生 ラネット部門で【最優秀賞】を受賞しました。青谷高校のグラウンド前に横断幕が掲げてあるので、見られた方も多いでしょう。

生徒たちは全国の場を踏んで、とても緊張したけれどいい経験になったと話していました。本当にすごいですね。



青谷小学校でも、劇を披露した

## おわりに

12月に、中学生対象のキャンプファイヤーをしました。リーダー養成の一環です。何しろ現在の小・中学生は行事の精選やコロナなどにより、キャンプをやったことがないので、今回は公民館スタッフがリードして行いました。中学生にはスタンツ（出し物）を考えもらいました。肌寒かったので、火の暖かさが心地よく、中学生の考えた出し物で大変盛り上がりました。今年は男子ばかりだったので、来年は女子の参加も期待したいです!!



キャンプファイヤーの火は幻想的